

# 富山市内遺跡発掘調査概要IV

ご ぼう やま  
御坊山遺跡

2000

富山市教育委員会

# 富山市内遺跡発掘調査概要IV

ご ぼう やま  
御坊山遺跡

2000

富山市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は、富山市池多地区に所在する御坊山遺跡の発掘調査概要である。
- 2 調査は、個人住宅建設に伴うもので、国庫補助金及び県費補助金の交付を受け、富山市教育委員会が実施した。
- 3 調査期間　現地調査　平成12年5月24日～平成12年6月15日  
　　遺物整理　平成12年6月16日～平成12年11月30日
- 4 調査担当者　富山市教育委員会　主任学芸員 古川知明
- 5 調査にあたり、文化庁、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから指導を得た。また調査にあたり、地元池多地区、富山市池多地区センター、土地所有者増山梅雄氏の各氏に協力をいただいた。記して謝意を表します。
- 6 遺跡記号はBGYとし、遺構記号は、溝跡：SD、土坑：SK、ピット：Pである。
- 7 出土品の図化作業は、古川が行った。
- 8 出土品及び原図・写真類は、富山市教育委員会が保管している。
- 9 本書の執筆は、古川が行った。

## 目　　次

I	遺跡の位置と環境	1
II	調査の経緯	4
III	調査の概要	6
IV	まとめ	10
	図版	11
	報告書抄録	19

## I 遺跡の位置と環境

御坊山遺跡は、富山市街地の西南西へ約8kmの富山市池多地区内に所在する。池多地区は、呉羽山丘陵と射水丘陵の間の平岡集落付近を扇頂部とする旧扇状地形（境野新扇状地）の扇頂部付近に位置する。この旧扇状地形は、南西側の射水丘陵からの開析を大きく受け、丘陵麓側に南西から北東方向に延びる細長い馬背状の低丘陵地形を発達させている。この低丘陵地形は、幅100~150m、最大長さ700m以上にも及んでおり、各箇所には旧石器時代以降、遺跡の形成が認められる。

かつて丘陵地及び扇状地の谷あいには灌漑用溜池が多く築造されていた。これらは江戸時代の文化年間（1804~1818）頃の開削が多いとみられ、この時期周辺の新田開発が盛んに行れたとみられる。

呉羽山丘陵から射水丘陵一帯にかけては、県内でも最も遺跡が密集する地域である（第2図）。主として旧石器時代、縄文時代、奈良、平安時代の遺跡が集中している。

旧石器時代には、境野新遺跡、向野池遺跡、平岡遺跡でまとまった石器の出土がある。呉羽山丘陵から射水丘陵東部にかけての石器製作遺跡は少なく、境野新遺跡、小杉町新造池A遺跡が発見されているにすぎない。境野新遺跡では東山型石刃技法による石器が瀬戸内系横長剥片剝離技法による石器とともに出土しており、注目される。また向野池遺跡では黒曜石製の細石刃核が採集されており、中部高地系の細石刃文化が始めて県内で確認された例として重要な発見であった（富山市教委ほか2000）。

縄文時代草創期には平岡遺跡で槍先形尖頭器がまとまって採集されている（麻柄1997）。



第1図 遺跡位置図 (1:50,000 富山・八尾)



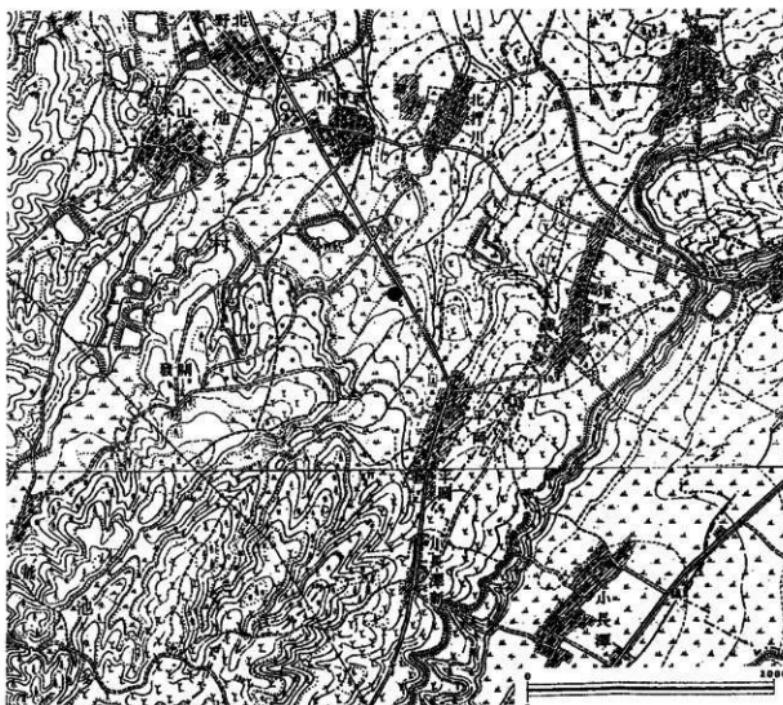
第2図 御坊山遺跡（1）と周辺の遺跡（1:12,000）

No.	遺跡名	年代	種別	No.	遺跡名	年代	種別
1	御坊山	奈良	生産（製鉄）	19	開ヶ丘中山Ⅳ	旧石器・縄文・奈良	集落・生産
2	北押川墓ノ段	繩文・奈良・中世	集落・生産（須恵窯）・坂	20	開ヶ丘中Ⅰ	旧石器・縄文・奈良	集落・生産
3	北押川B	縄文	奈良・平安・安葬・生産	21	開ヶ丘孤谷	縄文・奈良・平安	集落・生産（須恵窯）
4	北押川C	縄文	集落	22	御坊山南	奈良・平安	散布地
5	池多東	旧石器・奈良	生産（炭窯）	23	開ヶ丘東Ⅰ	縄文・奈良・平安	散布地
6	向野池	旧石器・奈良	生産（土師窯）	24	開ヶ丘東Ⅱ	縄文・奈良・平安	散布地
7	境野新	旧石器・古墳	集落	25	平岡神明社裏	奈良・平安	生産（須恵窯）
8	北押川1号窯	奈良・平安	生産（須恵窯）	26	吳羽カントリー内	縄文・奈良・平安	散布地
9	西押川	中世	散布地	27	平岡窯	縄文・奈良	生産（須恵窯）
10	上堀池	縄文・奈良・平安	集落	28	平岡Ⅱ	縄文・奈良・平安	散布地
11	ガメ山	縄文・奈良・平安	散布地	29	平岡	旧石器・縄文・奈良	集落跡
12	開ヶ丘中山窯	奈良・平安	生産（炭窯）	30	大開Ⅱ	縄文	散布地
13	山本塚ノ木塹	奈良	生産（須恵窯）	31	野下	旧石器・縄文・奈良	集落跡・道路跡
14	開ヶ丘中山Ⅲ	縄文	集落	32	境野新A	不明	散布地
15	開ヶ丘中山Ⅰ	縄文	散布地	33	絆野V	縄文	散布地
16	開ヶ丘孤谷Ⅲ	縄文・奈良・平安	集落跡	34	絆野Ⅳ	縄文	散布地
17	開ヶ丘中山Ⅱ	奈良・平安	散布地	35	境野新南Ⅱ	縄文・奈良・平安	生産（炭）
18	開ヶ丘孤谷Ⅱ	縄文・奈良・平安	集落跡				

平岡遺跡ではまた縄文前期中葉の土器もまとめて出土している（山本1992）。開ヶ丘の丘陵部では、開ヶ丘狐谷Ⅱ遺跡で落し穴造構が検出されている（富山市教委1987）ほか、開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡では縄文中期中葉の立石を伴う竪穴住居群（富山市教委1988）、上堤池遺跡で中期後葉の竪穴住居（富山市教委1973）が確認されており、丘陵地を中心に縄文時代の集落形成が顕著であったことがわかる。

白鳳時代後期には平岡窯跡で須恵器生産が開始される（池野1999）。奈良時代初めには柄谷南遺跡で瓦陶兼業窯2基が形成され、また鐘状銅製品・対葉花文のある透彫り木製品などの仏教関連遺物や土製權衡が出土しており（富山市教委1999）、越中における仏教文化の浸透過程を考える上で貴重な発見がなされた。

奈良時代から平安時代初期にかけて、丘陵地及び旧扇状地では傾斜地を利用した須恵器窯の築造がさかんになる。北押川1号窯、北押川・墓ノ段窯、山本新藤ノ木窯、開ヶ丘四方ノ池窯、開ヶ丘狐谷窯、平岡神明社裏窯、開ヶ丘中山Ⅱ窯（推定）、御坊山窯（推定）などがあげられる。また御坊山遺跡では鉄滓の出土が顕著で、鉄生産の工房が営まれていた



第3図 遺跡(●)と周辺の古地形 1:20,000 (明治43年測図:呉羽村・長澤)

と推定される。製鉄に伴う炭窯も開ヶ丘中山窯、池多東窯などで検出されており、鉄生産も多く行われていたことがわかる。

平安時代には向野池遺跡で土師器焼成遺構と掘立柱建物、井戸等が検出されており、土師器製作集団の工房集落と考えられる。井戸からは土師質瓦塔が出土しており井戸の廃絶にともなう祭祀として使用されたとみられる。この瓦塔は土師器焼成遺構で焼かれたもので、県内初例である。北押川・墓ノ段遺跡では楕円形土坑が10基確認されており、廃棄土坑・鍛冶関連土坑が主であるが土師器焼成遺構と想定されるものも含まれている。(富山市教委1973)。

中世以降遺跡は少くなる。北押川・墓ノ段遺跡では方形墳墓(墓ノ段塚)1基が所在し、青磁・珠洲焼等が出土していることから、集落・墓地の形成があったとみられる。

## II 調査の経緯

御坊山遺跡は、昭和51年3月発行『富山市遺跡地図』にNo109御坊山遺跡として登載され、周知の埋蔵文化財包蔵地として知られることになった。地名表では須恵器・土師器・タタラ(羽口)が採集されており、奈良～平安時代の窯跡が存在するとの記載がある。

昭和63～平成3年に行われた市内遺跡分布調査において、昭和51年に登載した遺跡範囲から南側への遺物の散布の広がりを確認したため、平成5年3月に発行した『富山市遺跡地図(改訂版)』において遺跡範囲を広げ、41,000m<sup>2</sup>を遺跡範囲とした。

平成10年、御坊山遺跡のほぼ全域において、市の企業団地造成計画に基づく埋蔵文化財試掘確認調査が実施され、遺跡の概要が明らかになった。調査では51,150m<sup>2</sup>を対象としたうち39,700m<sup>2</sup>に奈良・平安時代の堅穴住居、炭窯、溝、土坑などが確認され、また鉄滓も多く出土したことから、製鉄に関わる生産遺跡ということが明らかになってきた。

平成12年4月個人住宅建設について協議があり、同年5月から造成工事を行いたいという希望が出され、平成12年5月8日付で埋蔵文化財の所在確認依頼書が提出された。工事予定地は、平成10年の試掘確認調査により遺跡の所在が確認されていたため、すぐさま造成計画との調整を行った。その結果遺跡の所在する355m<sup>2</sup>について掘削を行うこととなったため、その範囲について発掘調査を実施することとした。

発掘調査は平成12年5月24日から同年6月15日まで行った。

その後引き続き出土品整理を行い、報告書の作成を平成12年11月30日まで完了した。

## III 調査の概要

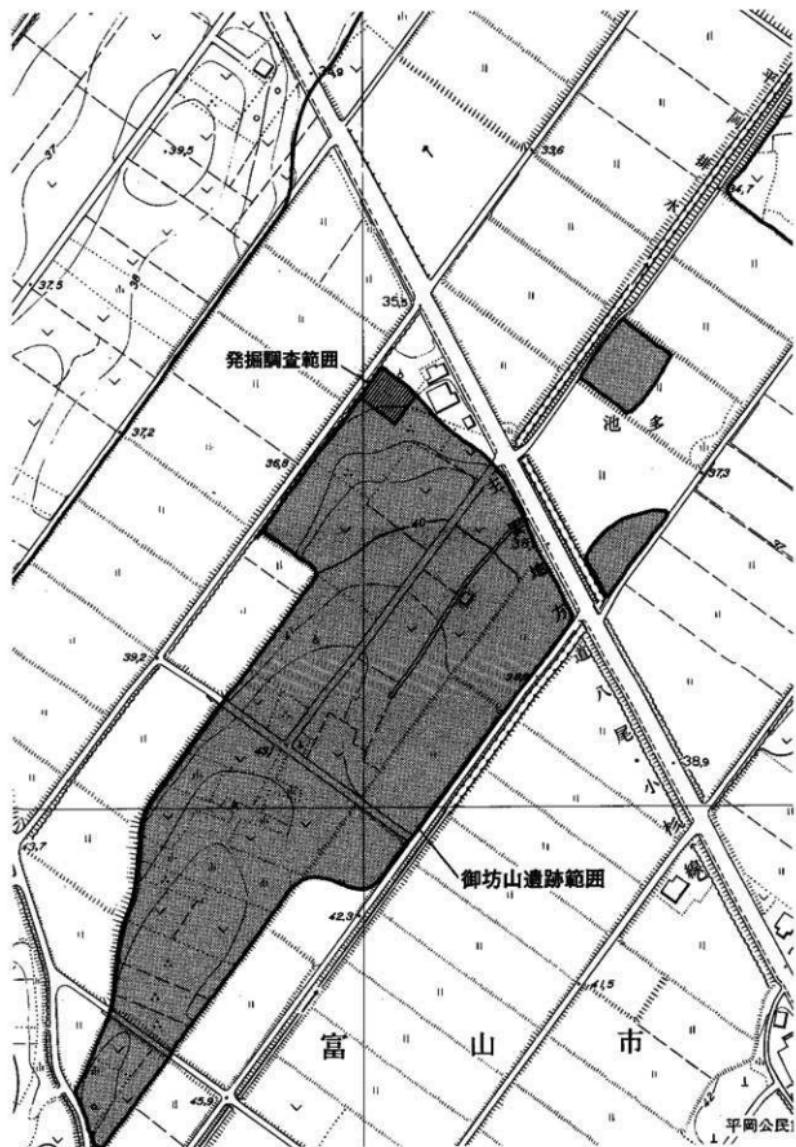
### 1 概要(第5図)

土坑4基、溝1本、ピット1基のほか、風倒木痕5か所を確認した。

### 2 基本層序・地形

#### (1)基本層序

第I層黒褐色土(畑耕作土、厚さ10～25cm)、第II層暗褐色土(厚さ5～20cm、遺物包含層)、第III層黄色火山灰土(地山)で第III層上面が遺構検出面である。

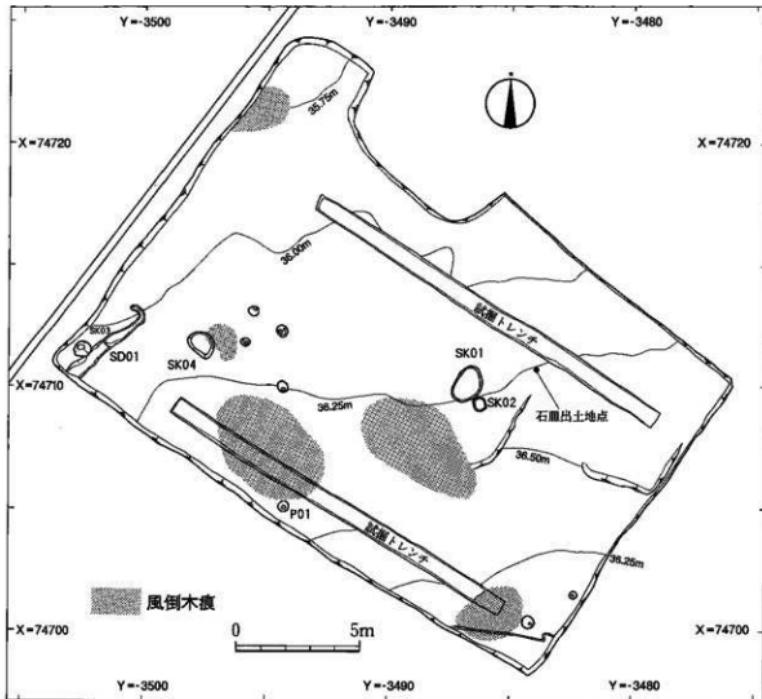


第4図 発掘調査区域図 (1:2,500)

## (2) 地形

御坊山遺跡は細長い馬背状の低丘陵上に立地している。昨今の圃場整備により丘陵の両側の谷地は盛土により埋められ、丘陵地の一部はその土の充当のため大きく削られている箇所も見受けられる。明治43年測量図では改変前の旧地形をはっきりと確認することができる（第3図）。

今回の調査地点は遺跡の北西部にあたり、標高35.7mから36.4mの南東から北西方向の緩やかな傾斜地にある。調査区南端が最も高いが、ここでは第Ⅲ層地山の上部が耕作時に少し削られている。遺物包含層（第Ⅱ層）も南側では残存せず、谷側で最大20cm程度が残るにすぎない。



第5図 遺構平面図 (1:200)

### 3 遺構

#### 土坑

S K 0 1 (第6図、図版5) 浅い楕円形土坑で、調査区中央部で検出した。長径1.55m、短径1.05m、深さ5cmを測る。暗褐色土が主たる埋土である。出土遺物はなし。

S K 0 2 (第6図、図版5) 浅い隅丸方形の土坑で、SK01の南東側に隣接して検出した。0.55×0.5m、深さ7cmを測る。暗褐色土が主たる埋土である。出土遺物はなし。

S K 0 3 (第6図、図版5) 円形土坑で、調査区南西端で検出した。長径0.75m、短径0.65m、深さ40cmを測る。黒色土が主たる埋土であり、底面は西側へ延びるようである。風倒木の可能性がある。出土遺物はなし。

S K 0 4 (第6図、図版6) 浅い楕円形土坑で、調査区西部で検出した。長径1.2m、短径0.9m、深さ15cmを測る。黒色土が主たる埋土である。出土遺物はなし。

溝 S D 0 1 (第6図、図版5) 調査区南西端において、南西から北東方向に延びる幅50~60cm、深さ5cmの浅い溝を延長4.1m確認した。溝は調査区外である南西方向に延びている。溝は、北側において幅が25~50cmと狭くなり、やや深くなる。北端では90度西に屈曲し、0.6m延びて止まる。埋土は第2層と同じ黒褐色土である。出土遺物はなし。

この溝は地割に沿った方向を示していることから、境界を示す溝と推定されるが、その年代は不明である。

ピット P 0 1 (第6図、図版6) 直径45cm、深さ22cmの円形ピットである。柱穴と考えられ、柱痕とみられる黒色土(第1層)は幅10~16cmである。

### 4 遺物 (第7図、図版7,8)

縄文土器(1) 深鉢形土器の胴部片である。胎土に0.5~2mm程度の石英・長石粒を多く含む。単節縄文R・L原体を左上から右下方向に転がして縄文を施文する。倒木痕出土。

打製石斧(2) 多孔質の安山岩製で、基部と刃部が折損している。礫表皮を一部に残し、全体を厚く仕上げている。現存長8.5cm。縄文時代中~後期と推定される。周辺で採集。

石皿(3) 砂岩製で、被熱による剥落・ひび割れが生じている。三角形状の厚みのある円盤を原材とし、側縁の3分の2を敲打により整形を行っている。磨面は2面あり、表面には16×10cmのよく磨かれた凹面がある。この面は緩い皿状に5mmほど凹んでいる。この面の周囲1~1.7cmもやや磨かれている。また側面にも6.8×4.3cmの方形のやや磨かれた浅い凹面が存在する。縄文時代と推定される。調査区東部、搅乱中の出土。

須恵器(4~7) 無台杯、広口壺、甕、横瓶、壺または双耳瓶がある。

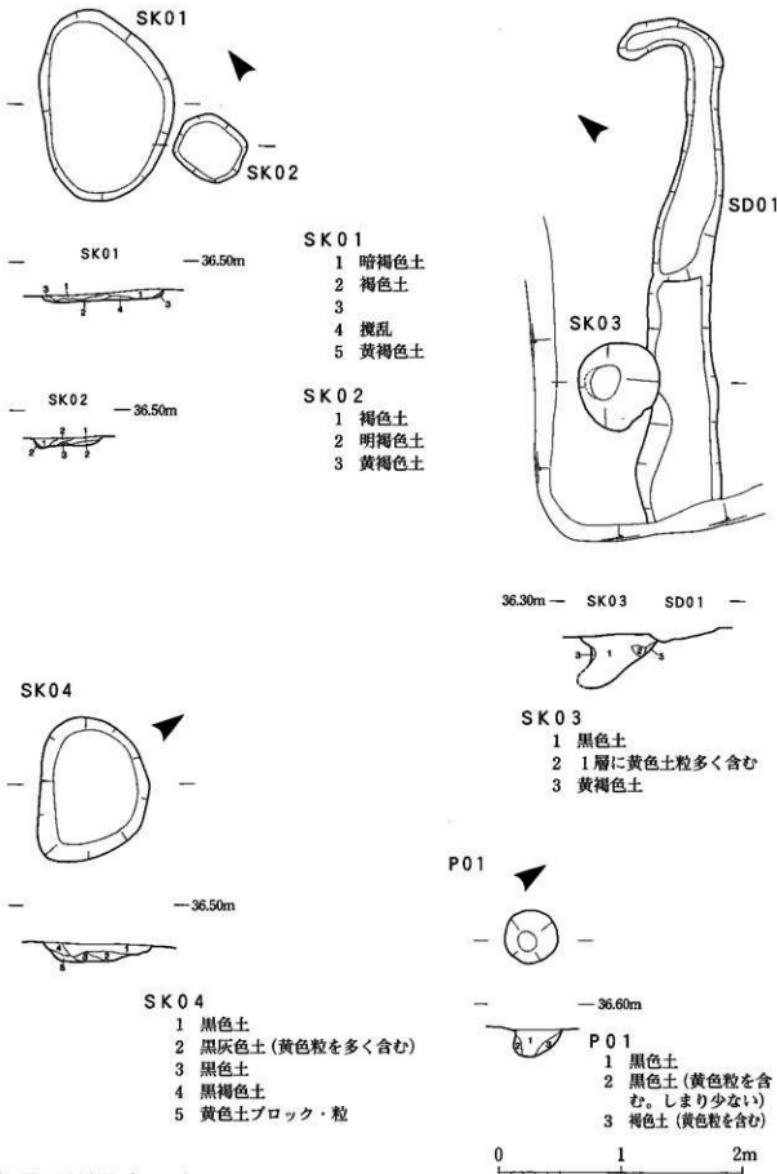
4は無台杯底部である。底径9cmで、器壁は薄い。8~9世紀代のものと考えられる。

5は広口壺である。口縁端は短く外反し胴部はくの字状に屈曲する。外面及び内面底部に自然釉がかかる。小杉町天池C遺跡S-21窯(小杉町教委1993)出土例に類似し、8世紀前半代に位置付けられる。調査区北西部、表土中の出土。

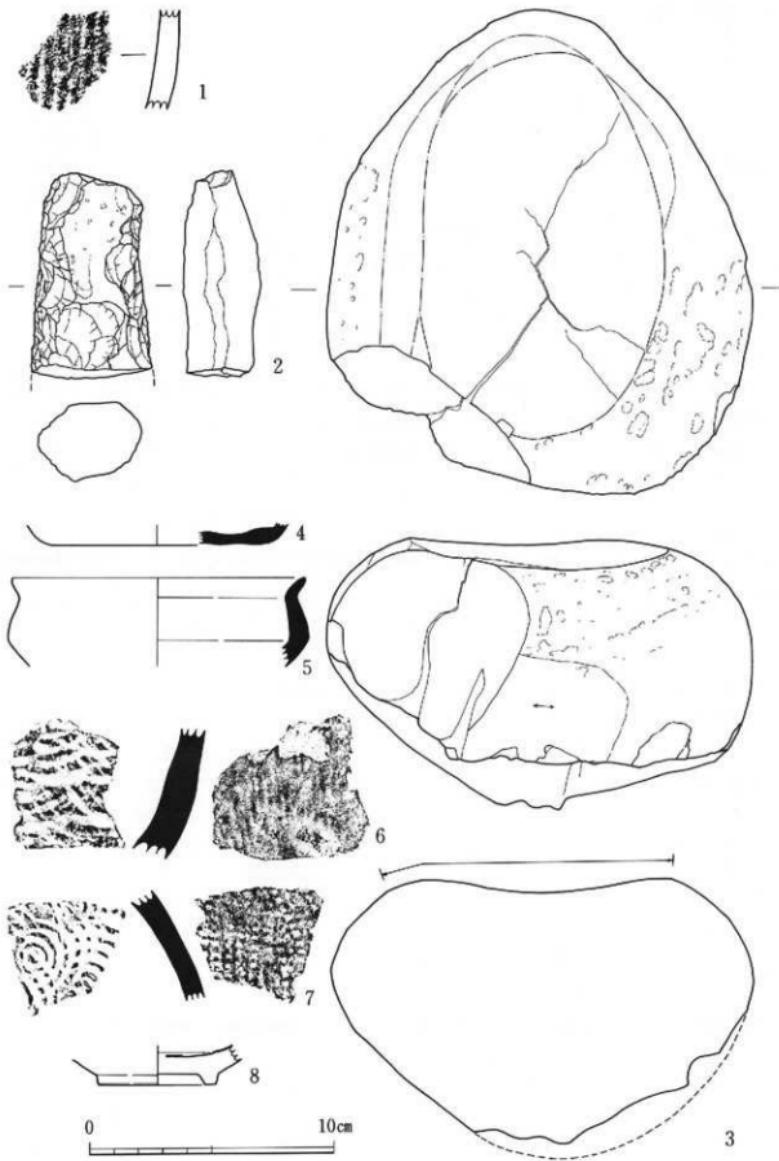
6は横瓶の体部片である。外面は、浅い縄叩き整形と思われるが、自然釉のため明瞭でない。内面は同心円あて具痕が残る。8世紀代と考えられる。調査区南端の搅乱中から出土。

7は甕または壺の体部上半片で、外面には格子目叩き整形、内面同心円あて具痕が残る。8~9世紀代のものと考えられる。調査区北部、表土中の出土。

瀬戸美濃(8) 椀底部で、底径は5cmを測る。高台は削出しで作出している。内面には灰釉がかかる。18世紀代のものと考えられる。調査区東部、搅乱中の出土。



第6図 遺構図 (1:40)



第7図 出土遺物実測図 (1:2)

## IV まとめ

今回の調査区は、御坊山遺跡の北端部にあたり、遺跡の主体的性格である製鉄生産にかかる遺構は発見されていないため、集落外周域部分と思われる。地形はやや傾斜しており、北や北東方向へ倒れた倒木痕が幾つか認められている。そこから縄文土器が出土し、また打製石斧・石皿も周囲で出土しており、付近に縄文時代の住居跡が存在すると思われる。

確認された遺構のうち、ピットは掘立柱建物の柱穴と推定されるものの、建物規模等は明確ではない。土坑は大小規模があり、きわめて浅い掘込みである。性格・年代等を特定する資料はなかったものの、これらは最も出土が多い8～9世紀代の須恵器と同年代に帰属するものと思われる。出土した須恵器で年代がほぼ特定できるものとして、第7図5の広口壺があり、8世紀前半に位置付けられる。御坊山遺跡のこれまでの試掘確認調査等の結果から、遺跡の存続時期は7世紀末～8世紀後半ということが明らかになっている。この時期の須恵器窯は未確認であるが、遺跡南西部に所在する可能性が高い。さらに調査地点から北へ200mに所在する北押川・墓ノ段遺跡からは8世紀中頃の須恵器窯2基の所在が確認されており、御坊山遺跡周辺においては奈良時代前半の遺跡が密集することが留意される。

本遺跡から約1.7km北方に位置する柄谷南遺跡からは8世紀初頭の瓦陶兼業窯と仏教関連遺物等が出土しており、ほぼ同時期に営まれたとみられる本遺跡との関連が注目される。

注 図版8下段に御坊山遺跡及び北押川・墓ノ段遺跡の出土遺物実測図を掲載

## 参考文献

- 池野正男 1999 「越中・射水郡の7世紀後半の社会」『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会  
奥村吉信 1988 「富山平野の旧石器時代遺跡の遺物集中地點－旧石器集団の動態復原をめざして(1)－」  
「大境第12号」富山考古学会  
小杉町教育委員会 1993 「小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧1992年度」  
富山県教育委員会 1983 「県民公園太閤山ランド内遺跡群調査報告(2)」  
富山市教育委員会 1973 「呉羽丘陵城山南部の自然科学および文化史跡調査報告書」  
富山市教育委員会 1973 「北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 富山市上堤池遺跡」  
富山市教育委員会 1973 「北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 富山市北押川遺跡」  
富山市教育委員会 1974 「富山市境野新遺跡発掘調査報告書－古墳時代住居跡－」  
富山市教育委員会 1986 「富山県富山市開ヶ丘狐谷遺跡発掘調査報告書」  
富山市教育委員会 1987 「富山市開ヶ丘狐谷II遺跡」  
富山市教育委員会 1988 「県営畑地帯総合土地改良事業地内遺跡試掘調査報告書(昭和62年度)」  
富山市教育委員会 1999 「富山市内遺跡発掘調査概要Ⅲ 柄谷南遺跡」  
富山市教育委員会 2000 「富山市向野池遺跡」  
富山市教育委員会・富山市埋蔵文化財調査委員会 2000 「富山市境野新遺跡・向野池遺跡」  
西井龍儀 1979 「入門講座① 先土器時代(1)」「富山市考古資料館報No1」富山市考古資料館  
西井龍儀・藤田富士夫 1976 「呉羽山丘陵周辺の先土器・縄文時代草創期の遺物について」『大境第6号』  
林寺巖州・麻柄一志 1992 「2.向野池遺跡と金屋遺跡の旧石器」「大境第14号」富山考古学会  
麻柄一志 1997 「富山県平岡遺跡採集の搶先形尖頭器」「旧石器考古学 54」旧石器文化談話会  
山本正敏 1992 「富山市・婦中町平岡遺跡採集遺物の紹介」「大境第14号」富山考古学会



御坊山遺跡周辺写真 1946(昭和21)年7月 米軍撮影



御坊山遺跡周辺写真 1992(平成4)年 国土地理院撮影



調査区近景（北東から） 背後は開ヶ丘の丘陵



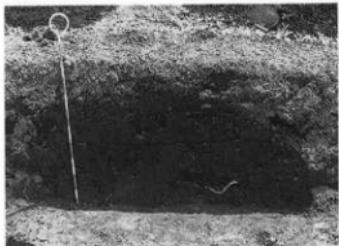
調査区近景（南から） 奥の低い丘陵部は北押川・墓ノ段遺跡



調査区近景（東から）



調査区北西部（北東から）



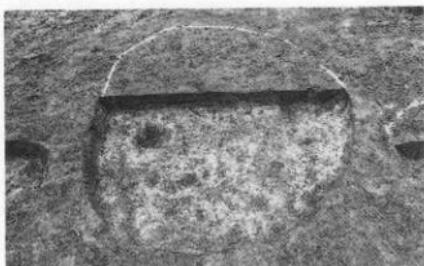
基本土層 (X74708.5 Y-3500.5)



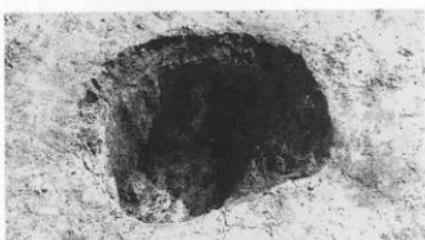
土坑 (SK01・02) 南西から



溝 (SD01) 南西から



土坑 (SK01) 土層 南西から



土坑 (SK03) 南西から



土坑 (SK02) 土層 南西から



土坑 (SK03) 土層 南西から



土坑（SK04）土層 南東から



土坑（SK04）



ピット（P01）土層 南東から



ピット（P01） 南西から



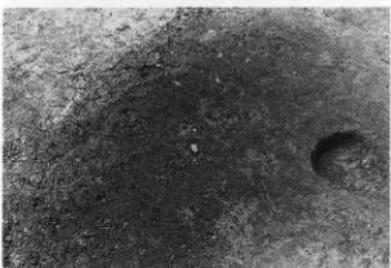
石皿出土状況 北東から



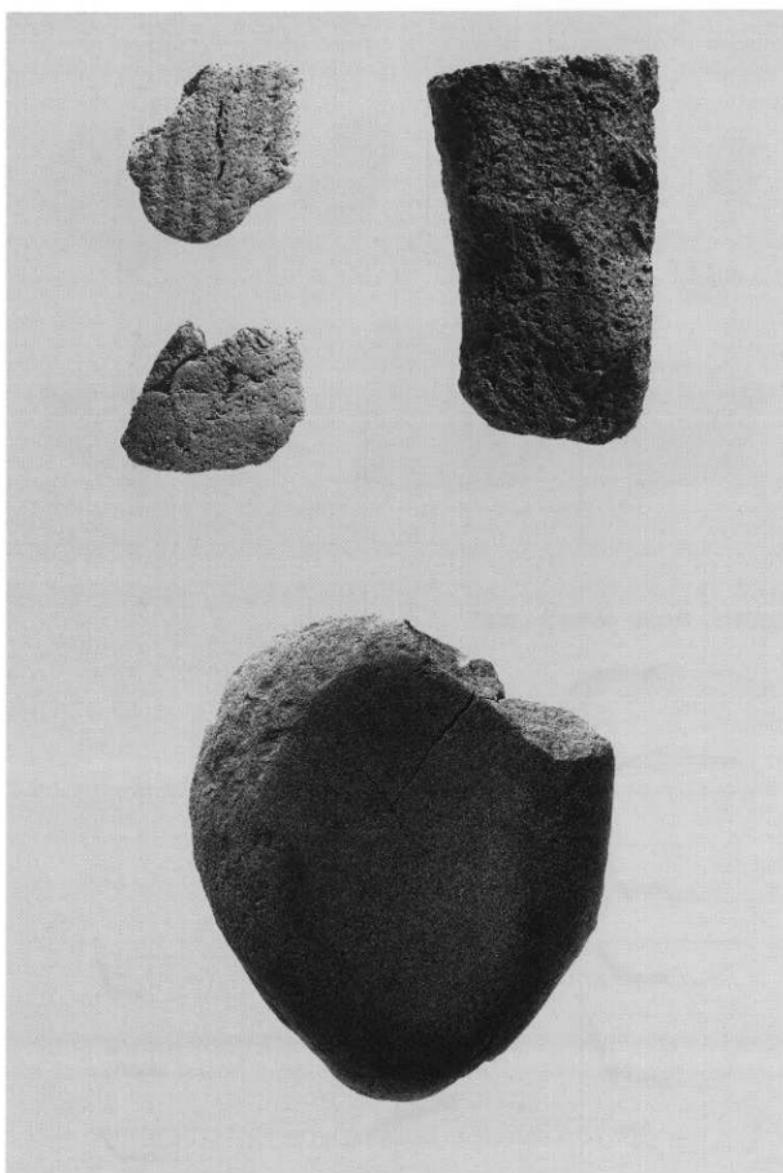
石皿出土状況



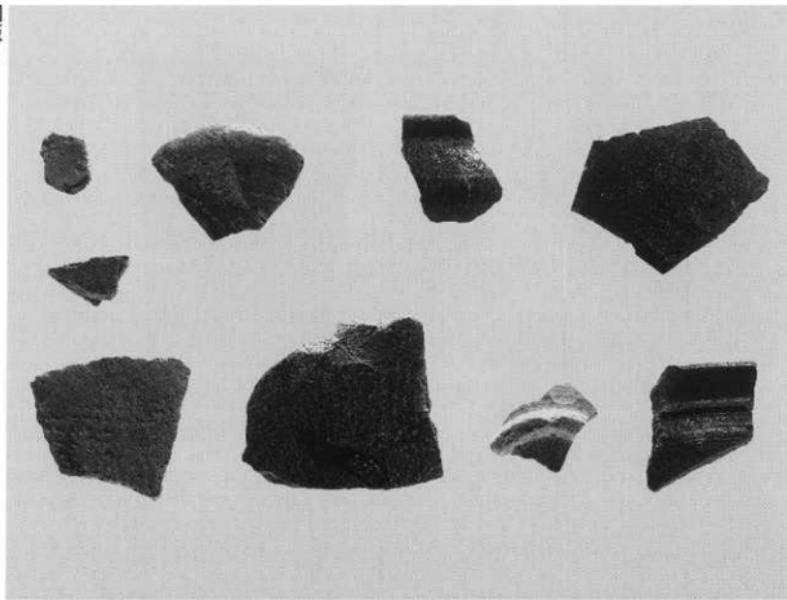
調査区近景 西から



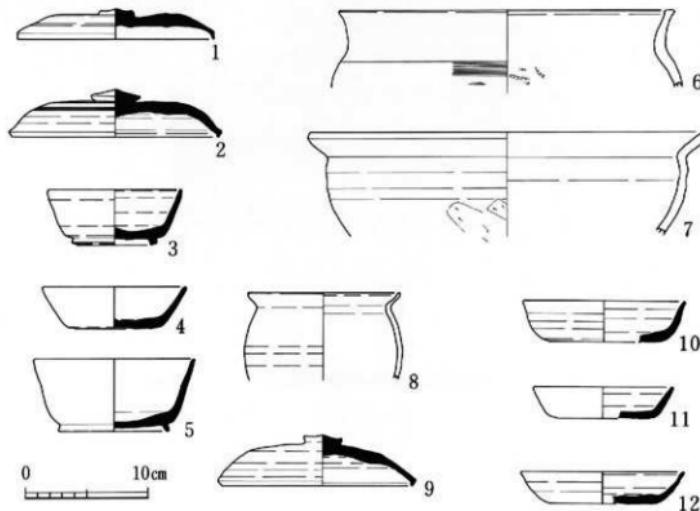
風倒木痕からの縄文土器出土状況



出土遺物 上左 繩文土器 上右 打製石斧 下 石皿



出土遺物 須恵器・瀬戸美濃・唐津



第8図 御坊山遺跡出土遺物（1～8） 北押川・墓ノ段窯出土遺物（9～12）

## 報告書抄録

ふりがな	とやましないいせきはつくつちょうさがいよう よん ごぼうやまいせき							
書名	富山市内遺跡発掘調査概要Ⅳ 御坊山遺跡							
副書名								
編著者名	古川知明							
編集機関	富山市教育委員会 埋蔵文化財センター							
所在地	〒930-0803 富山市下新本町5番12号 TEL(076)442-4246							
発行年月日	西暦2000年12月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 。 "	東経 。 。 "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ごぼうやまいせき 御坊山遺跡	とやましいけだ 富山市池多	16201	460	36° 40' 20"	137° 12' 50"	20000524 ~ 20000615	355	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
ごぼうやまいせき 御坊山遺跡	集落跡 生産跡	縄文時代 奈良時代 近世		土坑、ピット 溝		縄文土器、打製石斧、石皿 須恵器 瀬戸美濃		

## 富山市内遺跡発掘調査概要Ⅳ 御坊山遺跡

2000（平成12）年12月25日

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター  
〒930-0803 富山市下新本町5番12号  
(Tel)076-442-4246 (Fax)076-442-5810

印 刷 所 日興印刷株式会社  
富山市黒崎高木割72